

第 3 回東アジア首脳会議(概要)

平成 19 年 11 月 21 日、シンガポールにおいて第 3 回東アジア首脳会議(EAS)が開催され、我が国より福田総理が出席したところ、概要は以下のとおり。

1. 地域・国際情勢に関するセッション

(1) ミャンマー情勢

- 福田総理より、我が国はミャンマーの民主化及び人権の状況を心配している、ミャンマー政府がスーチー女史を含む全ての関係者との間で真の対話に積極的に取り組むことを切に希望している、大きな進展が見られるのであれば国際社会としてそれを後押しするインセンティブを用意すべきであり、日本としてその用意がある旨発言した。
- 各国からも、ミャンマー問題の対話に基づく解決及びガンバリ特別顧問の周旋努力を支持する等の発言があった。

(2) 北朝鮮問題

- 福田総理より、最近の六者会合における非核化プロセスの進展を評価している、重要なことは合意に従って北朝鮮の核放棄を実現することでありまだ道半ばであり、また安全保障の観点からはミサイル問題も重要である、六者の合意が成功をおさめ、関係国間の正常化が進み、最終的に北東アジアの冷戦構造を終結させることが政治に求められている役割であり、日本としては、拉致問題の解決と不幸な過去の清算の双方を実現すべく努力する考えである旨発言した。
- 各国からは、最近の六者会合の下での非核化プロセスの進展を肯定的に評価する発言があった。また拉致問題に関し我が国の懸念を共有する旨の発言もあった。

2. エネルギー、環境、気候変動及び持続可能な開発に関するセッション

(1) 福田総理より、地球環境問題への取組は待ったなしであり、特に気候変動問題に関しては、全ての主要国が参加する実効的な 2013 年以降の枠組を構築していくとの明確なメッセージを打ち出し 12 月のバリ会合につなげていきたい、日本は公害克服の経験や環境エネルギー分野の高い技術を有するなど環境問題の解決に向けて世界をリードできる立場にあり、この点を十分に踏まえた上で、東アジアにおける「持続可能社会」の実現に向け、EAS 参加国と共に取り組みたい旨発言した上で、1) 東アジアにおける「低炭素・循環型の社会」の構築、2) 東アジアの豊かで多種多様な自然との共生、3) 東アジアにおける将来に向けた環境保全の知的インフラ作りを柱とする日本の環境協力を表明した。

(2) 各国からも、環境・気候変動問題への取組に向け、全ての国が一致して努力すべきである等の発言があり、本会議の成果を12月のバリ島COP13会合につなげていきたい旨の発言があった。

(3) また、会議終了後、気候変動、エネルギー及び環境問題に関する今後のEAS各国の取組や協力等を明記した「気候変動、エネルギー及び環境に関するシンガポール宣言」が採択された。

3. その他 EAS 協力に関するセッション

(1) 福田総理の発言の主なポイント以下のとおり。

- エネルギー安全保障に関し、EAS各国のエネルギー大臣に対し合意事項の確実な実施を指示することを提案し、前回のEASで日本が表明した協力案件が着実に実施中であることを報告。
- 教育・青少年交流に関し、「21世紀東アジア青少年大交流計画」の着実な実施状況を報告するとともに、本年12月に「東アジアの異なる文化・社会・宗教間対話シンポジウム」を日本で開催することを表明。
- 鳥インフルエンザに関し、抗ウイルス剤計50万人分をASEAN各国に新たに配備することを表明。
- 経済面での協力に関し、東アジア包括的経済連携(CEPEA)構想の民間研究の進捗を評価するとともに、東アジア・ASEAN経済研究センター(ERIA)の正式設立を歓迎。EASの下でビジネス界との対話の機会を設けることを提案。
- EAS首脳のイニシアティブを着実にフォローアップするためのメカニズムの検討を事務レベルに指示することを提案。

(2) このほか、各国よりは、文明、宗教間の対話をEASの下で推進するべきとの発言があり、また、EAS協力の着実なフォローアップのためのメカニズムにつき、今後検討していくこととなった。

東アジアにおける「持続可能社会」の実現に向けて
— 第3回東アジア首脳会議(EAS)における
日本の環境協カイニシアティブ—

1. 低炭素・循環型社会の構築 — 温暖化・公害対策と経済的自立の両立 —

- (1) 「美しい星50」の下で、本年1月に表明した省エネ等の協力を推進するとともに、温室効果ガスの排出の抑制と経済成長の両立を目指す途上国に対しては、新たな「資金メカニズム」により、政策支援を行い、気候変動の緩和、適応、クリーンエネルギーの利用促進に向け協力。
- (2) 循環型社会構築への協力
 - ・「アジア3R研究・情報ネットワーク」を構築し、政策・経験の共有を通じて各国の3Rの取り組みを支援。
 - ・3R及び廃棄物の適正処理の推進に向け、アジア各国より今後5年間で500名以上の研修員を受け入れ。
- (3) 水質汚濁、大気汚染等の公害対策のため、今後5年間で、20億ドル規模の資金協力及び500名以上に研修を実施。

2. 豊かで多種多様な自然との共生

- (1) 森林の保全
 - ・日本の観測衛星等の情報を活用した東アジアの森林資源管理を支援。
 - ・世界銀行の「森林炭素パートナーシップ基金」に最大で1千万ドルを拠出。この基金を通じ、温室効果ガスの排出の抑制と経済成長の両立を目指すアジア地域等の途上国の豊かな森林の保護が図られることを期待。
- (2) サンゴ礁保全のため、各国と協力して「重要サンゴ礁ネットワーク戦略」を策定。
- (3) 日ASEAN間で「環境対話」を実施し、その中で、日ASEAN統合基金(JAIF)を優先的に活用して以下を含む協力を推進。
 - ・「ASEAN持続的環境都市賞」への支援。
 - ・アジアの豊かな自然と開発を両立させるエコ・ツーリズムの促進。
 - ・ASEAN域内の生物多様性保全に向けた事業への支援。

3. 将来に向けた環境保全の知的インフラ作り

- (1) 温室効果ガス観測技術衛星を来年度に打ち上げ、観測データを各国に提供。
- (2) アジアの環境リーダーを育成するため、日本国内の大学院と協働して、東アジアにおける環境分野での大学院間のネットワークを構築。
- (3) 「21世紀東アジア青少年大交流計画」(JENESYS)を活用し、訪日するアジアの高校生に日本の環境対策の現場を体験する機会を設けるとともに、環境関連分野を履修する大学院生を今後4年間で500人以上招へいし、環境教育に貢献。
- (4) 深刻な環境汚染の現場に要請を受け直ちに赴き、対応策の検討を東アジア各国と共に行う環境専門家チームを形成。



気候変動、エネルギー及び環境に関するシンガポール宣言(ポイント)

前文

- 気候変動の負の影響を懸念、途上国の適応能力向上及び国際社会の地球規模の温室効果ガス増加に至急対応する必要性を強調。
- 気候変動への取組のためのグローバルな議論に貢献している、豪州、中国、インド、インドネシア、ニュージーランド、日本及び韓国を含む EAS 参加国の努力を評価。

本文

気候変動

- 全ての国が気候変動への取組において役割を果たし、先進国は引き続き主要な役割を果たすべき。
- 大気中の温暖化ガスの濃度を長期的に安定化させる共通目標にコミット。
- より実効的な 2013 年以降の国際的取決めへの道を開くため、長期的で願望としての排出削減目標に関する共通理解に到達するための作業を支持。
- 国連気候変動枠組条約の下で、実効的・包括的・衡平な 2013 年以降の国際的取り決めに向けたプロセスに積極参加。COP13 の成功を支持。

エネルギー、森林、その他

- 「セブ宣言」等に基づき、エネルギー効率向上等の協力を強化。エネルギー集約度の顕著な削減に向けて努力。2009 年までに自主的なエネルギー効率目標を策定。
- 森林保全のための協力を促進。2020 年までに森林面積を 1500 万 ha 以上増加させるとの願望としての目標達成のために努力。
- コ・ベネフィット・アプローチを推進。自然災害リスクに係る協力を強化。沿岸及び海洋の生態系の保全を促進。安全な飲料水へのアクセス及び衛生を向上させる。
- 3R、「低炭素社会」等を通じ、急速な都市化による環境問題に対応。シンガポールの EAS「住みよい都市」会議開催の提案を歓迎。

フォローアップ

- 第 2 回 EAS エネルギー大臣会合を開催するとのタイの提案、及び 2008 年第 4 四半期に EAS 環境大臣会合を開催するとのベトナムの提案を歓迎。